

【Web フォーラム】

「新たな情報収集スキルとアセスメント力の育成、地域ケアの実装に向けて」

2022年12月10日（土）9:30～12:30

座長 三橋 睦子 久留米大学医学部看護学科長

京都橘大学 看護学部 准教授 野島 敬祐 先生
訪問看護師のためのオンラインシミュレーション教育

医療法人白髭内科医院 院長 白髭 豊 先生
「在宅医療での診療所医師と看護師の連携 Face to Face から あじさいネットの活用まで」

国際医療福祉大学成田病院 緩和医療科 部長 結束 貴臣 先生
「緩和医療でのエコー活用と適切な治療薬選択-アセスメント力の重要性-」

久留米大学医学部看護学科フォーラム開催事務局
渡邊理恵・河原田康貴

【参加状況とアンケートの結果（アンケート集計結果参照）】

- ・参加申し込み 124名（オンライン110名 リアル参加16名）
- ・アンケート回答 48名 38.7%（オンライン44名 リアル参加4名）

【アンケート結果概要】

大変満足した77%、満足した23%で概ね参加者の満足は高いものであった。さらに今後の看護活動に大変参考になった81%、参考になった19%と内容が臨床が求める課題に則した意義のあるものであったと言える。参加のきっかけは、大学から、知り合いからのお知らせが9割を示した。

①フォーラムの内容については、実際的で臨床の役に立つ。多職種とのコミュニケーションの重要性の再確認ができた。ICTの活用と地域ケアのように結びつけるか考えていきたい。便秘という一つの症状を通してアセスメント力の重要性とその考え方が今後の看護活動に大いに参加になった。などの内容がそれぞれの参加者の看護活動の質の向上を目指す上で大いに参考になったことが伺えるものであった。

②ICTと遠隔教育に関する健康支援に関する意見は、ICTを駆使した連携ツールを積極的に取り入れていく必要性を感じた。行政の支援の必要性、地域に患者をつなぐ病院から発信する必要性、ICTを活用しながら基本的には対面で相手を理解し関わることは大切にしていきたいなどの、遠隔コミュニケーションの在り方を具体的に考える機会とな

ったことが伺えるものであった。

③フォーラム開催の運営に関して、講師の人選が良かった、テーマに惹かれた、WEB配信が参加しやすかった。などテーマや開催形態に関して満足度が高い意見が多く、企画・運営に関して良かったと言えるのではないかと。

【フォーラム参加後のアンケート結果】

1. 回答者数

48名

2. フォーラム参加のきっかけ

本学ホームページ	1 (2.1)
大学からの案内	25 (52.1)
施設長からのお知らせ	2 (4.2)
知り合いからのお知らせ	14 (29.1)
その他	6 (12.5)

3. フォーラムの満足度

大変満足した	37 (77.1)
満足した	11 (22.9)
期待したものではなかった	0

4. 今後の（看護）活動への参考

大変参考になった	39 (81.2)
参考になった	9 (18.8)
参考にはならなかった	0



5. フォーラムの内容に関するご意見・ご感想

- 実際的な講義で臨床に役立つものであった。
- とても勉強になりました。
- 大変役に立つ勉強会でした。
- とても刺激になりました。ありがとうございました。
- オピオイドと便秘に関するエビデンスが理解できました。
- 在宅医療の実際について、関係者間でのコミュニケーションの重要性が学べました
- 大変興味深い内容でした。ICT と地域におけるケアをどう結び付けるか考えていきたいと思います。
- 新規の訪問看護の立ち上げに際し、非常に有意義なご講演でした。ありがとうございました。
- 訪問看護師としての家族関係のアセスメントの重要性は理解できました。今後の業務に活用していきたいと思います。
- 日頃の訪問看護業務の中でとても気になっていたトピックでこれからの飛躍にもつながる内容でした。
- 途中からの参加となりましたが、実践で活用できる内容から看護のあり方まで考えさせられる講義でした。また、オンデマンドで聴講できることも有難いです。ありがとうございました。
- コロナ下でのオンラインでの研修方法、多職種とのチーム連携のためにはメールだけではなく電話や直接お話すなど、活きたコミュニケーションが大切であること、患者さんが苦痛を訴えられることが多い便秘に対するケアの方法が学ぶことができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 訪問看護の質の向上をいかに確保していくか課題です。実際訪問看護での排便ケアは看護ケアの中で大きくシェアします。製薬会社の方とケアの負担軽減を検討したこともあります。本日の講義では科学的根拠に基づいたケア方法を学ぶ事が出来ました。エコー技術の導入も当事業所の課題です（学ぶシステムや場所・時間の問題など）。
- 在宅医療現場の実際より、患者家族の意思決定支援がいかに必要であるか？その意思決定も時間経過とともに変化することもあり、看護師はその状況に察知して、在宅支援に繋がる医療関係者と、十分な意見交換の機会が必要であると再認識しました。排便調節の重要性を、エビデンスをもとにご教授いただき、本当にモヤモヤ感が払拭されました。
- オンラインシュミレーション、情報閲覧、多職種連携ツール、エコーを使用したケアと今の時代の新しいものが取り入れられより看護の質の向上につながっていると思うが、反面、やはり生きたコミュニケーションが大切であるということを実感しました。これから機械と人、どちらも大切にしながら時代に合った優しい看護をしていきたいと思いました。
- 患者さんやご家族にとってよりよい看護を実践していくためには、相手の思いを引き出せるコミュニケーション力や、各専門を活かしたチームでのコミュニケーションが大切であることを改めて学びました。また、アセスメントにはフィジカルのほかにデジタルも活用しながら根拠に基づいたケア実践が重要だと思いました。患者・家族を中心に据えた、新たな情報収集スキルとアセスメント力の育成・地域ケアの実装に向けてのテーマに即した内容になっていたと感じました。野島先生の講演ではウィズコロナ時代の中、学ぶことをあきらめない斬新的な取り組みや、看護教育・地域看護の新しいシステムを紹介していただきとても参考になり楽しく学べました。今後遠隔での様々な教育ツールとして発展していくことを期待しています。また白髭先生の講演においては、緩和ケア認定看護師として自分が目指してきた「生きた看護・生

きた地域医療支援」とはこういうものだったよなあと実感し感動すらしました。様々なIT技術がすすみ便利になっていく中でも現場においては生きた・活きたコミュニケーションを忘れずに、支援を通じてその人の人生にかかわっていくことを絶対に忘れてはならないと再認識しました。またチーム医療における取組姿勢、多職種でアセスメントを一緒に行い交流していく重要性を学び、今後自身の職場（行政関連）でぜひとも活用していきたいと思いました。

更に、結束先生の講演では便秘を一から詳細に学ぶことができ、緩和ケア認定看護師としての知識向上につながったと思います。そして改めて便秘がQOLにおいて大きな障害となっていることを学ぶこともできたと思います。機能性便秘型直腸便秘に対し、まずは排便を施してから坐剤および浣腸処置を行うことが必要であることが、恥ずかしながら目からウロコの学びでした。

今日の講演会に参加でき、緩和ケア認定看護師として、地域ヘルス・地域医療に携わる立場として深い学びを得ることができました。

最後に、この学びの機会を与えてくださいました三橋看護学科長様はじめご尽力くださった皆様にご挨拶申し上げます。ありがとうございました。

- エコーを使用した看護は質の向上につながる技術と思う。
- AI や5G が近い将来当たり前に用いられるようになると、色々な世界が変わると言われています。その先を見据えて、工夫できることやICTが進んでも人のつながりを大切にしていくことの重要性改めて感じました。
- 現在、日々の看護をする中で、困っていることや悩んでいる事を解決できる内容でした。オンデマンドを全看護師に見せてあげたいと思います。大変貴重な時間で明日からの活力になりました。
- 3名のご講演は実践的内容で大変興味深く参考になりました。ありがとうございました。

6. ICTと遠隔コミュニケーションによる健康支援（看護活動）に関するご意見

- 行政の支援が必要である。
- 久留米市でのアザレアネットの更なる普及ととびうめネットの今後の活用の重要性について再認識できました。
- 久留米にあるアザレアネットをもっと活用することが出来ると地域密着されるのではないかと感じました。
- ICTの活用で、適切適時な情報交換や医療実践ができるように、病院側の活用推進を図っていくことが重要です。
- ICTを駆使した健康支援についてはとても関心があります。ただ、ICTを使っていく上での環境整備等にはまだ課題が大きいのかもしれません。病院間での連携の示唆を受けて、教育機関と病院や施設との間でどのような連携を作り上げていけるのかも今後の課題だと思いました。
- 私自身が、まだICTに慣れていない、使いこなせていない状況ですが、有効に活用していくことが、利用者様、家族のためになると思いますので、苦手意識を持たず、積極的に取り入れていきたいと思っています。
- 進化する科学、コロナ世相があいまって一段とテクノロジーの世の中となりましたが、看護の基本はface to face、目を見て、肌に触れて、相手を理解し、関わることの大切さは変わらないと思います。
- 患者さんの様々な環境や状況下で施設での受診困難や、終末期を在宅で過ごされるために支援として、デジタルを活用した看護・医療はより効果的であるよう今後もさらに発展していくことだと思います。大規模施設と地域医療との連携、教育においても、顔が見えない状況下でもできることを、

本日拝聴して学ばせていただきました。

- 時代に沿った(昭和～令和)そしてコロナ禍、患者様と繋がりを持ち続けて行く為の活動手段が素晴らしい。
- 具体的な場面がリアルに説明されており分かり易かった。今後も引き続き活動について知りたい。
- 今はコロナ禍で様々な対面の取り組みが制限されるため遠隔コミュニケーションにより、患者の安心安楽につながると考えた。
- これから高齢化が進み党员でも活用していけるように努力していきたいと思います。

7. フォーラム開催の運営に対するご感想やご要望

- 白鬚先生の在宅医療の実践はこれからの医療を考える上で参考になるご講演でした。このような企画をしていただき誠にありがとうございました。
- コロナ禍で ICT を活用することが多くなりましたので、情報やデジタルを活かした看護についてのテーマは興味を惹かれました。開催していただきありがとうございました。
- 非常に興味深いテーマで、今後の現場に役に立てるものでした。今後とも何卒宜しくお願い致します。
- 充実した内容で、今後の業務運営・活動に励みとなりました。有難うございました。
- 非常に受けやすく良かったです。
- WEB で参加することができました。ありがとうございました。
- 自宅療養中なので Zoom 配信有難いです。また是非参加させて頂きたいです。
- 企画・運営をご担当された先生方、準備等大変だったことと思います。大変お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ご尽力に深く感謝申し上げます。
- このような機会を頂き感謝申し上げます。
- 受講証明書が欲しいですね。
- ライブ配信。オンデマンド配信、会場など参加し満日やスイ選択ができるように運営していただいたことはありがたかった。知り合いからのお知らせで数日前に知れましたので、フォーラムのお知らせがもう少し多岐にわたるとありがたいなと思いました。

以上